

平成29年度第5回北海道科学技術審議会 部会 議事録

日 時：平成30年1月16日（火）15：00～16：20

場 所：かでの2. 7 9階 920研修室

出席者：

（委員）尾谷部会長、荒川委員、大倉委員、西岡委員、菅野特別委員、
佐々木特別委員、末富特別委員、松村特別委員

（事務局）青木室長、木下参事

<p>青木室長</p>	<p>科学技術振興室長の青木でございます。 ただ今から、北海道科学技術審議会 第5回部会を開催いたします。 本日の出席状況についてですが、長谷山委員と一入委員、お二人が所用により欠席しています。 本日の部会につきましては原則公開ということで、秘匿案件はございませんので、本日の内容につきましても公開とさせていただきます。 会議時間は概ね2時間、17時頃を終了の目途としております。 それでは、ここから先の進行につきましては、尾谷部会長にお願いしたいと思います。</p>
<p>尾谷部会長</p>	<p>この部会、今日が最後ということになります。いつもは計画の議論ですけれども、今日はもう一つ、条例の見直しという二つの案件を皆さんに御検討いただくことになります。 では、早速議事に入らせていただきます。 議題1「次期北海道科学技術振興計画（案）」についてです。 前回の部会は昨年10月24日に開きましたが、それ以降、11月の親審議会、12月のパブリックコメントなどがあり、これらを踏まえて、今日皆さんの手元に原案から修正した案が示されております。 この後、事務局から説明してもらいますが、基本的に前回の原案から変更した点を中心に説明していただきます。今回は最後の、我々に課せられた案づくりの部会となりますので、皆さんには忌憚のない御意見を出していただければと思います。 それでは、事務局から説明をお願いします。</p>
<p>木下参事</p>	<p>計画案につきまして、資料1-1から資料1-4、参考資料により御説明したいと思います。 資料1-1は昨年10月に御説明した原案からの主な変更点をまとめたものでありまして、本日はこれに沿って、計画(案)本文の資料1-3などと見比べながら、御説明します。 まず、一つ目は、資料1-3の計画(案)の1ページをご覧ください。 「第1章 基本的な考え方」の「2 計画の性格」の最後に、「本計画は持続可能な開発目標（SDGs）」の達成に資するものです。」と記載</p>

をいたしました。

この持続可能な開発目標とは、この計画(案)の53ページに資料編としてまとめた、用語解説のサ行に記載してありますとおり、2015年9月に国連で採択された、先進国を含む2030年までの国際社会全体の開発目標として、17のゴールとその下位の目標の169のターゲットから構成されているもので、エスディーズという、Sustainable Development Goalsの略でございます。

道では、この持続可能な開発目標に関連する計画を策定する場合には、基本的にこうした趣旨の文言を記載することとしておりまして、この科学技術振興計画におきましても記載することといたしました。

次に、二つ目、計画(案)の2ページから7ページをご覧ください。

「第2章 前回の計画における主な取組と情勢の変化等」の記載であります。ここで大変申し訳ございませんが、参考資料1「第3回北海道科学技術審議会開催結果」をご覧くださいと思います。

その1ページ、昨年11月に開催した第3回審議会の開催結果の「4 委員からの主な意見」の「(1)重点化プロジェクト以外」のところで、2ポツ目のとおり「第2章の現計画の主な取組と今後の課題の記載では、できたこと、できなかったこと、その原因・要因、今後何をすることが見えない」といったご意見をいただきまして、事務局側からは矢印のとおりに「もう一度、何が悪かったかという部分を含め、少し検討したい」と、その場でお答えしているところでございます。

そこで、計画(案)の、この第2章の1の部分につきましては、(1)～(6)のそれぞれで、最後の印の部分新たに「今後の課題」と明示し、例えば、4ページの「(2)道における研究開発等の推進」では、「外部資金による研究課題のうち、相手方が研究費の一部又は全額を負担して実施する一般共同研究及び受託研究の件数が、景気動向などの影響を受け、減少しています。」とか、あるいは「(3)産学官金等の協働の推進」では、「産学官の共同研究の取組は着実に進んでおり、今後は、これまでの研究者個人との間で行われてきた小規模な産学官による共同研究に加え、オープンイノベーションを推進し、「組織」対「組織」の大型連携による企業と大学等との共同研究を更に進めていくことが必要です。」といった内容を追加いただきまして、「第5章 重点化プロジェクト」や「第6章 基本的な施策」の記載内容、あるいはこれらのつながりを意識して、内容を加筆・充実して、記載させていただいたところでございます。

次の変更点として、計画(案)の17～28ページの「第5章 重点化プロジェクト」をご覧くださいと思います。

原案では、各分野で「参考指標」としていた指標の項目と現状値、それと、その現状値が増加するのか、減少していくのかといった方向性を矢印で示し、具体の目標値は示さずに提案していたと思います。そこで、審議会においては、参考資料1、第3回審議会の開催結果の「(2)重点化プ

プロジェクト」の〈参考指標〉に一番上に書いてあるとおり、「目標値を作らないのであれば、プロジェクトが評価できないし、マネジメントができない。目標値は是非つくるべき。」といった意見があり、事務局からは、その下の矢印のとおり「施策も研究開発も、道だけでなく、様々な関係機関に及ぶ中で、目標値を指標化することは困難。第6章の道が関係機関と取り組む、基本的な施策のほうでは、目標値を設定するが、重点化プロジェクトでは、例え、目標値を設定しても、道の予算だけでは達成できず、道としては責任を負えない」と回答いたしました。

その後、審議会の議論の中で、「重点化プロジェクトは、様々な機関が同じベクトル、方向性の道標であり、北海道全体の指針」であるといった意見や、「KPI(重要業績評価指標)は、自らが努力すれば達成できるものを設定するのであって、自らコントロールできないものを設定するのは趣旨としてそぐわない。道がコントロールできる第6章に目標値を記載するのであれば、それで良いのではないか。」といった意見があり、また、「第6章に目標値を設定するのであれば、逆に、第5章の重点化プロジェクトには参考指標がない方がすっきりする。」といった意見がありまして、重点化プロジェクトの各分野で掲げていた「参考指標」というものは削除しました。

次の変更点といたしまして、計画(案)32ページをご覧いただきたいと思えます。「第6章 基本的施策」の「1 研究開発の充実及び研究成果の移転等の促進」の「(2) 研究開発に関する拠点の形成」であります。一番下に空白部分があります。昨年原案では、《主な取組》の一番最後、四つ目として、〈橋渡し研究戦略的推進プログラムの展開〉を記載しておりました。この部分でございますが、北大と札医大、旭医大が組織していた、プログラムの推進組織であります、北海道臨床開発機構が解散することになったことから、記載を削除させていただいたこととでございます。

次の変更点といたしましては、「第6章 基本的施策」の指標についてであります。計画(案)の33ページ、35ページ、36ページ、38ページ、40ページに囲い込みで記載していますが、原案で各指標において、「調整中」としていた目標値をこの度の計画(案)では設定いたしました。

目標値は、これまでの実績ですとか上がり具合のトレンドによる推計、あるいは大学等の中期目標、中期計画などを参考にしながら設定いたしました。

次の変更点でございますが、計画(案)の51ページ以降でございます。資料編を載せました。本文中にアスタリスク、*印のある用語の解説と、**印の箇所に関する資料出典を作成したほか、関係機関の一覧ですとか策定経過などを掲載いたしました。

さらに、恐れ入りますが参考資料1の審議会の開催結果の2ページをご覧いただきたいと思えます。〈ロードマップ将来の絵〉と書いてある

ところの、二つ目のポツの最後のほうに、「重点化プロジェクトにはロードマップがない」という御意見、5行飛ばして、三つ目のポツに、「夢として書けるもの、目に見えて書けるものが一例あるだけでも良い。こういったものを書いてあるだけでも、ロードマップ代わりになる。」、また、五つ目と六つ目のポツに「道民が見た時に、こんなに北海道が良くなるのならうれしいなって解るような絵姿が描けるとすばらしい」、「重点化プロジェクトは、あとはその見せ方だけかなという印象。絵姿というのは、未来投資戦略2017の絵で良いかなと思う。」といった意見があり、また、部会におきまして、この資料の3ページでございますが、「4委員からの主な意見」の〈全体の構成と重点化プロジェクト〉の一番最後のポツにあるように、「30年、50年先を見つめて、将来像を踏まえて全体を俯瞰する絵があると良い。」と意見があったところであります。こうした審議会、部会の意見を踏まえ、資料1-4のとおり、科学技術の振興によって目指す、未来の北海道の絵姿ということで、「Future of Hokkaido」という資料を作成させていただきました。

この絵は、計画案の「第3章 基本目標」でございます、「持続的な経済成長の実現」、「安全安心な生活基盤の創造」、「環境と調和した持続可能な社会の実現」の3本柱で、その分野ごとの様々な場面で、科学技術を活かした未来を描いております。

例えば、「基本目標1 持続的な経済成長の実現」でございますが、左上「農林水産業の現場」では、自動運転トラクタや作業ロボット、リモートセンシング技術の活用、真ん中下の「ものづくり技術」における、AIの活用による技術の伝承、右上では、企業と大学間等との「オープンイノベーション」の進展、次のページの「基本目標2 安全・安心な生活基盤の創造」では、左上の「健康メニュー」では、健康状態をリアルタイムで把握するシステムの構築、左下には「遠隔医療」、真ん中上では「AIを活用したケアプラン」、右上では「自動運転バス」や「自動配送トラック」、「基本目標3 環境と調和した持続可能な社会の実現」では、左上の「資源循環リサイクル」、左下には「低炭素社会の実現」、真ん中下には「エネルギー自給」、右上には「地域循環システム」の取組などを描いているところでございます。

最後の変更点でございますが、その他として、本文では、必要な文言修正を行っているほか、計画案の表紙を見ていただくと、計画の副題として、「北海道の有する価値の一層の向上と多様化する課題解決への貢献」としており、今後の科学技術に対する期待ですとか、あるいはこの計画の有り様を表すものとして記載したところでございます。

説明の最後になりますけれども、資料の一番最後に参考資料2というものをつけてございます。昨年11月29日から12月28日の1か月間に行った、パブリックコメントと関係団体などへの意見募集による意見と道の考え方などを記載しております。パブリックコメントにつきましては、

	<p>道のホームページをはじめ、地デジのデータ放送ですとか、産学官ネットワーク推進協議会のメールマガジンで周知を行いまして、ご覧のとおり6名11件のご意見のほか、関係団体からも5団体7件の意見をいただき、資料のとおり対応いたしました。資料の説明は以上でございます。</p>
尾谷部会長	<p>それでは、ただ今の説明に関して何かご質問等がございますでしょうか。</p> <p>実は原案では、我々の部会として第5章のところに、北海道がこういう方向で進んでいくのであれば、何かメルクマールになる指標みたいなものがあつたほうがいいですよということで、トレンドを記載していました。それは、後々、自分たちで検証していく上でも記載しておいたほうがいいということでしたのでしたのですけれども、親会議に上げましたら、先ほど説明のあつたように、なぜトレンドだけなんだと、数字がきちっと出てこないのであれば目標にすえて取り組む意味がないと親会議の先生方から御意見をいただきました。</p> <p>この計画は北海道全体で取り組んでいく方向性を示すものでして、すべてを道でコントロールできるものでもないで、なかなかその詳細は書きようがなかったのですが、なんとかそこがあつたほうがいいなという思いがあつて部会ではトレンドを記載していたのですけれども、それを削除して、第6章のほうに具体的に道が実質的にできる中身のものを数値目標をきちっと挙げて記載しましたという修正の説明でしたいかがでしょうか。</p>
菅野委員	<p>いろんな指標が記載されていますよね、「道内大学等における共同研究の件数」ですとか。この根拠は、なにか示してありましたでしょうか。</p>
木下参事	<p>前回の部会で、こういう意図でこういう指標を設定しますというような説明はしましたけれども、現状値と目標値を示して、こういう理由で目標値になるよという説明はまだしておりません。</p>
菅野委員	<p>例えば、道内大学等における共同研究の件数が平成27年度は1,247件とありますけれど、これはどこから出てきた数字でしょうか。</p>
木下参事	<p>文部科学省において、各大学に調査した統計です。</p>
菅野委員	<p>そういう調査があるんですよね。それをどこかに明記したほうが、わかりやすいような気がします。せつかく用語解説まで記載しているので、指標の根拠もあつてもいいのではと思いました。</p>
荒川委員	<p>33ページと34ページに掲載されているグラフについては、出典といふか何々調べによるといふのが記載されていますよね。ですから、目標値がこうなるっていうのは無いのですけれど、今、現状はこうだということの出典は記しておくのが普通のやり方だと思います。そういうことですよね。</p>

菅野委員	ええ、平成34年にこうなるという、それはなくてもいいですけど。
木下参事	ちょっと検討させてください。米印をつけて記載したいと思います。
青木室長	用語解説のところに記載しておけばいいですよ。
菅野委員	そうですね。
木下参事	わかりました。そんな形でちょっと検討させてください。
尾谷部会長	ほか、いかがでしょうか。
西岡委員	<p>全体的に中身が随分、整理されていて、すごくいいなと思っています。それが第一印象です。</p> <p>二つ、三つ、お話をしておきたいなと思っているのは、今、木下参事から、こういう意見について、こういう中身の盛り込みをしていますという整理をずっと聞かせていただいたので、御苦労があったなというのがそのところなのですけれど。</p> <p>11月7日の親委員会のときに2時間やって、1時間以上は、様々な先生方がわーっと言ったんですね。その項目をきちっとこうやって整理されてはいるんですけど。次回の親委員会にかけるときに、またぞろ同じような話になると思いますので、そこは上手に答えができるようにしておいたほうが、きっといいと思います。</p> <p>これはこういう項目なのでここに入れますとか、こうしますっていうこと、確かに今、話しされていますけど、先生方にしてみれば1時間以上、議論して、きつともっと別な思いもあると思うので、そこはきちっと先生方の話が盛り込まれていますよということを上手に説明されるとういかなと思っています。</p> <p>二つ目は、この「Future of Hokkaido」という絵が出てきているのが、すごくいいんです。こういったものを見せるということで、ああ、平成30年度からの振興計画を進めていくのは、将来的にこういう北海道の絵姿を目指して、進んでいるんだなという一つの形になるので、いわゆるロードマップだとか何とかにつながっていくんだらう、これはこれでいいと思っていますんですけど。中身を基本目標、第3章の三つの目標に対して、こういう絵姿なんですよっていう形、これはこれでいいんですけど、もうちょっとっていうのは、例えば第4章で研究分野が挙がっているので、例えば農林水産業の現場では将来はこうなりますよ、これに向かっては研究分野のこんなところに注力しているので、こっちに向かっていけるんだとかっていう、ようは基本目標に対して4章、5章で進める項目が少し紹介されているとわかりいいかなと思っています。言いたいことは何かっていうと、農林水産業の現場は今、こうなっていますよ、こういうふうに将来、向かっていきますよ、それに向かって、第4章で進める</p>

	<p>主な研究分野の中に、ポンポンポンと項目が、うまくまとまった見せ方をするほうが、3章、4章、5章の全体の流れがうまく表現できるのではないかなと思っているんです。それが二点目です。</p> <p>それと、3点目になるんですけど、後ろのほうに大学の一覧とか、試験研究機関の一覧とかっていうのが出ているんですけど、結構、漏れが多い。例えば、43ページの函館地域に函館国際水産・海洋都市機構という名前が挙がっていますが、ここに問合せをしようと思って後ろを見ても、この国際水産・海洋都市機構が紹介されていない。少なくともここに挙がっている機関の名前は、後ろの一覧等で見えるようにしておいたほうがいいと思います。</p> <p>ついでに言えば、「(財)」と書いてありますけど、一般財団法人もあれば公益財団法人もあるんで、そこは正の、きちとした名前を入れとかなないとだめですね。これを道としてパブリッシュするのであれば、省略はだめです。フルの名前で出してください。</p> <p>それと、67ページの機会工業会は「一般社団法人」ですから、それは入れないと。北海道経済連合会は無冠だから、これでいいですけど、機会工業会は一般社団法人なので、こういうところのチェックをきちっと、もう一回やってください。</p>
尾谷部会長	<p>4点ほど挙げていただきました。本会議での説明を先生方のわかるように説明していただきたいというのと、それから、これがまた、ちょっと難しくなるかもしれませんが、この図に4章の具体的な技術というものが、どう重なるかというのが少し見えたほうがいいという話ですよ。それから、資料の本文で使われているものと添付資料のところの整合性、固有名詞は正しい記載をお願いします。これは言わずもがな、そのとおりでございますので、もう一回、精査をしたいというふうに思います。</p>
木下参事	<p>上手に説明するよというの、ありがとうございます。努力します。</p> <p>資料の整合性のところは、おっしゃるとおりなので精査します。</p> <p>最後の絵についても、おっしゃるとおりだと思いますが、見やすさか、あるいはどこまで関連づけて書くかだと思っております。見やすさという点では非常に量が多いので、もっと削りたいくらいでして、更にこういう研究開発がこれに関連していると書くのは、なかなか難しいです。</p>
西岡委員	<p>ごちゃごちゃになりますか。</p>
木下参事	<p>その心配があります。</p>
尾谷部会長	<p>我々は盛り込みたがりますけど、デザイナー的な視点からはシンプルに、となりますよね。</p>

西岡委員	<p>どういう未来に向かっていくのかが見えるのは、これでいいと思っているんですけど、せつかく4章とか5章で、こんなこともやっていくと書いてあるので、そこと目指す姿の導線みたいなものが少し見えるようになるといいなと思ひまして。</p>
木下参事	<p>4章、5章、6章の言葉は、この絵の中になるべく入れてあります。自動運転トラクタですとか、介護用ロボット、衛星測位データといった、そういう言葉は入れるようにしています。西岡委員のおっしゃりたいこともわかるんですけど、ちょっと我々としてはこれ以上、文字を増やすのは難しいと考えております。</p>
尾谷部会長	<p>折衷案ですけれども、これ全部、文字が並列になっていますよね。例えば、技術と連動するような部分は字体を変えるかというのではどうでしょう。見た目の違いですけど、これ以上なにか増やすというのはきつと大変でしょうから。</p>
青木室長	<p>4章の技術が見えるようにすればいいということですか。</p>
尾谷部会長	<p>そうですね。4章、5章に記載したようなところも、文言としては含まれているんだけど、並列で書かれていると、ぱっと見た感じでは浮き上がってこないの、そこはちょっと工夫してもらえますか。</p>
松村委員	<p>これは一般市民向けの資料となるんですかね。</p>
木下参事	<p>そうです。</p>
青木室長	<p>本当はもっとわかりやすくないと、まだ専門的過ぎるんですけど。</p>
松村委員	<p>そこはわかるんですけど、西岡委員の言うとおりに、例えばこの「北海道」という文字をとってみたら、これ、どこがつくった資料かよくわからないんですよ。なんとなく、日本全国の市民がこういう将来に住んでいるような気がします。</p> <p>やはり、この将来につながる道のりが今回の振興計画だと思ひますので、道ですとか研究機関、道内企業がどういうことをやって、こういう将来像に結びつくのかというのを、細かく書く必要はないと思ひますが、もう少しわかるようにするといいのかなという気がします。</p>
尾谷部会長	<p>道民がこの絵を手にする状況としては、道のホームページ等では資料として掲載されるんでしょうけれども、印刷されたものとしては、くっついて出るんですか、今の考え方としては。</p>
木下参事	<p>基本的には、計画と分けて考えています。</p>
尾谷部会長	<p>くっつける考えはないんですね。</p>
荒川委員	<p>別々に出て行くんですか、セットじゃなくて。</p>

木下参事	ホームページには並べて掲載しますけれども。
荒川委員	ちょっと気になったのは、この計画本文に書いてあるものと、この絵とでは必ずしも一致していない部分が結構あります。この絵のほうに盛り込み過ぎていて、えっ、それは本文のどこに書いてあるのという内容がかなり入っているんですね。独立していれば全然、違和感がないと思いますが、一緒に見たときには違うという感じがしませんか。この将来像のほうベースなんですか。
青木室長	具体的にやるべき施策は計画本文で、それが発展すると将来像になるというイメージです。
尾谷部会長	意図としては全くそのイメージなんですけどね。
荒川委員	少なくとも本文に書いてあるところはきちりと表現して、プラスアルファの部分とはメリハリをつけたほうがいい感じがします。並べて見ると、全く別の人がつくったのかなというくらい離れた感じがする。
大倉委員	概要というのがありますけど、概要のほうにこの絵を入れることはできないでしょうか。よそのホームページに掲載されていた産業振興計画のようなもので、絵が入った概要を見たことがあるような気がします。荒川委員が言うとおりの、この絵はあまりにも総花になっていて、内容がちょっと違うように思います。
荒川委員	実は概要も本文と離れていて、項目がちょっとずれたりしています。
尾谷部会長	ずれているところがありますか。
木下参事	項目は若干、つけ足したりしているところがあります。
荒川委員	抜けているのもありますよね。そういうところが、セットで出ていった場合に違和感を感じたりするのではないかと気になっています。
尾谷部会長	概要は本文と完全にセットですので、今、荒川委員から指摘のあった本文と連動していない部分については整理したほうがいいですね。
荒川委員	私が気になったのは、概要の一番最後、3ページ目に「2 道における研究開発等の推進」というのがあります。ここに四つ、丸印で項目が並んでいますけれど、多分、3番目の項目は本文のどこにも記載がないのではないのでしょうか。
木下参事	これは本文の34ページ、35ページになりますけれども、主な取組の項目としては三つしかなくて、概要にするときにちょっと寂しいということで、＜研究成果の活用促進＞という項目の「さらに」以下の部分、「大学の基礎研究成果の企業等への橋渡しなど、道内大学と道総研等が連携を強化して、研究開発や技術支援を推進します」というところを丸印の

	項目に起こしたものです。
荒川委員	あまりそういうことをしないで、本文の項目にそろえて概要を整理したほうがいいのではないかと個人的には思います。
青木室長	本文の項目で並べると説明不足の点があったので足したというところもあります。確かに項目数が合っていないのは整理が必要かもしれませんね。
荒川委員	概要なので、あくまでも本文の概要かなという感じがするんですね。
青木室長	わかりました。では、項目数を合わせる恰好で、説明はどちらかに寄せればいいですね。
荒川委員	そのように整理したほうがいいと思います。
尾谷部会長	ありがとうございます。では、この概要版のつくりは事務局で整理をお願いいたします。 では次に、非常に大きな問題ですが、この絵柄について御意見をいただきたいと思います。
佐々木委員	これは1枚の絵にまとめられないでしょうか。1枚の図の中に基本目標1、2、3が表現されている、例えば北海道の農村部があって、都市部があって、市民生活が一目でわかる、そういうものをイメージしていたのですけれども。
木下参事	そういう図も検討いたしました。例えば、田園風景と都市基盤があって、田園の産業空間には自動トラクタが、都市部には自動運転の自動車が走っている。そういうイメージでつくりたかったのですけれども、我々には技術的に無理な部分があってこうなりました。
尾谷部会長	要するにこれは2次元の資料なんですよ。今、佐々木委員が言われたのは、3次元空間で、バーチャルな形のところへ全部組み込んではどうかというお話ですよ。これは実際にやるとなると、なかなか難しく、実は検討したのですけれども、ちょっと現時点では無理かなということで、この3枚の絵に落ち着いたという経緯があります。
末富委員	こういう見やすいものつくるのは非常にいいと思います。私は、最初にこれを見たとき、子ども向けかと思いましたが、逆に、子ども向けには難しすぎますよね。子ども向けのそういうのをつくる、つまり、いろんな学校教育の中で、これからの人材を育成する、科学技術に関心を持ってもらうという意味では、やはり小学生、中学生向けが必要だと思います。そんなにつくり変える必要はないと思うので、是非、子ども向けのパンフレットに転用できるようなものを考えてほしいと思います。
木下参事	将来的には検討したいと思います。

尾谷部会長	基本的な構造から変えるというのは、もうこの時点ではなかなか難しいので、今日はこれで御判断いただきたいと思います。若干の修正、例えば表記の仕方とかであれば、部会の皆さんの御意見で修正の可能性があります。
末富委員	この絵は毎年、作り直していくような感じになりますか。
青木室長	計画自体は、毎年作り直しはしないです。
末富委員	こちらの絵のほうは。
青木室長	絵についても、毎年は作り直しません。
末富委員	計画自体は変えてしまったら計画になりませんので、当然のことですがけれども、それを受けての将来像については、毎年、変わってもいいのかなという気がするんですよね。
青木室長	推進管理については、計画に盛り込まれたものがどの程度進んだか、毎年やっていきますけれども、絵まで変えていくのは難しいです。
末富委員	やはり難しいですかね、計画と絵とはリンクしたものですからね。
大倉委員	この「Future of Hokkaido」というのは結局、本編の付録ということですか。どういう取扱いになるのですか。
木下参事	基本的に本編とは別物ですが、ホームページ等では一緒に載せたいと考えております。要するに、「計画」と「概要」と、こういう「未来の姿」という三つの形で載せたいというふうに思っています。
大倉委員	セットにはなっていないんですね。
尾谷部会長	基本的には、こういう計画は全部文字で作成されますので、ビジュアルな物が何もないと見る人は一字一句読んでいかなければならない。そういう意味での導入部分、これを理解する上でのアシストする資料という位置づけですね。
佐々木委員	今回の計画は5年計画ですが、この「Future of Hokkaido」の表紙には「おおむね10年後」という記載がされていますので、この次の計画のときにはこういったことが実現するよというイメージなのだと思います。 ところが、他のところには「10年後」という記載が全然ないので、計画と図がイコールのように見えて、こことこの内容の齟齬はどうなっているのかという疑問が出てくる。 ですから、あくまでもこれは今回の計画の更に先を描いているんですよということが図の中で表現されたら、多少の違いがあっても別のものとして納得できるんじゃないかなと思います。

木下参事	ありがとうございます。
尾谷部会長	我々はこういう未来を描いている。しかし、技術というのは、なかなか思い通りに進まない。きっちりこの5年間だけだったら何も変わらない、夢も希望もなくなってしまうという部分があるので、もうちょっと時間軸を広げて描いているということですよね。
佐々木委員	そうですね。例えば「Future of Hokkaido」の下に「2030」を書いたらいいのではと思いました。「Future of Hokkaido 2030」と、それくらい先を見越したものにすれば、計画との整合性は気にならないかなと。
青木室長	正直、つくっているほうとしては、こうなればいいなというくらいのつもりで考えておりました。
木下参事	中長期な展望をといる御意見もいただいており、そういう意見を踏まえて、ちょっと遊び心もあって、こういう資料をつくらせていただいたところです。
末富委員	いいと思いますよ、これ。非常にわかりやすいですし、具体的な話が入っていて興味が引かれますね。ただ、あまり大風呂敷を広げないように、その点だけ注意すればよろしいんじゃないですかね。
尾谷部会長	佐々木委員の御指摘、御助言のとおり、こちらの絵柄というのはもう少し広い意味合いで捉えていて、その前段5年が計画にもう少し詳しく記載されています。この5年がちゃんと進めば、向こう5年には、こういう未来が迎えられるでしょうという、そういう位置づけです。
荒川委員	上に記載されている「基本目標」は計画本文のままなんですよ。だから余計、違和感があります。上が本文と一緒にあれば、下も本文と一緒にするのが普通だと思います。下を将来の絵柄にするのであれば、目標が実現するとこうなりますという時間的な経過が表現されていると、わかりやすい。
佐々木委員	この「Future of Hokkaido」の表示が逆なんですよ、本当は。下側の将来像のほうにあるべきものですよ。
荒川委員	「Future of Hokkaido」は下の絵で、上は今回の計画というのが正解ですね。
尾谷部会長	確かにそうですね。デザイン上、どうしたらいいですかね。
佐々木委員	バランスとしては、「Future of Hokkaido」が上にあったほうがデザイン的にもおしゃれですけどね。
木下参事	5年後も未来ですし、10年後を展望するような感じにしても面白いかなというのがあります。いずれにしても「おおむね10年後」というのがキーワードかなと思います。

尾谷部会長	<p>この絵については、ただ今、皆さんから御意見をいただきましたので、事務局のほうで再検討いただいて、親会議に提案していただきたいと思ひます。</p> <p>では、それ以外の部分で、この計画案につきまして、御意見がありましたら御発言いただきたいと思ひます。</p>
佐々木委員	<p>表紙に新しく追加していただいたこのキャッチ「北海道の有する価値の一層の向上と多様化する課題解決への貢献」ですけれども、ちょっと私としてはピンときません。せつかくの科学技術を振興するという計画ですので、課題解決への貢献というよりも、科学技術によってという言葉がないと、なにか今ひとつ、科学技術振興計画に対するキャッチとしてはそぐわないかなという気がしました。</p>
青木室長	<p>科学技術という言葉が必要ということでしょうか。実は、そこは省略したところであります。前の計画はどちらかというと食資源やエネルギー資源を利用しようという計画でしたが、今回は人口減少社会というようなところの課題解決に向けた貢献が必要ですよねというところを足した意識だったのですが、ちょっと言葉が足りないですかね。</p>
佐々木委員	<p>なんとなく逆に、ぼやとしちゃうような気がしたんですよ。</p>
尾谷部会長	<p>具体的に言うと、「課題解決への科学技術の貢献」としたほうが良いということでしょうか。</p>
末富委員	<p>佐々木委員がおっしゃっているのは、逆に、科学技術を使って課題を解決するという、そういう意味なのではないですか。貢献するんじゃなくて、科学技術そのものが課題を解決するという。</p>
佐々木委員	<p>そういう書き方のほうが良いような気はします。</p>
末富委員	<p>それが貢献ですよ。横にあるんじゃなくて、ダイレクトに、そういうイメージじゃないかという気がしましたけれど。</p>
佐々木委員	<p>だったらむしろ無いほうが良いかな、とも思ひます。</p>
青木室長	<p>そういう意見も、もちろんあると思ひます。</p>
佐々木委員	<p>そのほうが明確かな、明快かなという感じはしております</p>
西岡委員	<p>この科学技術振興計画そのものは、きっと素晴らしい北海道の将来の社会をつくっていくんだっていうイメージですよ。課題解決に貢献することより、むしろ何かそういう北海道が持っているポテンシャルをうまく活用して、夢のあるような社会をつくっていくっていう見せ方ができるというのではないですか。</p>
尾谷部会長	<p>創造的な話をしたほうが良い、なにか問題が起きたからそれをなんと</p>

	かして解決したいというような対処法ではなくて、科学技術そのものが牽引して、こういう未来をつくるよってというイメージですかね。
西岡委員	佐々木委員がおっしゃりたいのは、そんなところかなと
佐々木委員	このキャッチが計画にそぐわないような気がしたんですね、言葉の流れとして。
尾谷部会長	事務局のほうで再検討していただいてよろしいですかね。
青木室長	中途半端なら止めてしまったほうがいいのかもしいですね。
佐々木委員	そういうふうにも思いました。
尾谷部会長	前回の計画は、このキャッチみたいな、サブタイトルみたいのはついていなかったですね。紋切り型の計画名だけでしたよね。
青木室長	そのとおりです。それでは検討してみて、ふさわしいものが思いつかなければ止めることにしたいと思います。
尾谷部会長	ほかに、いかがでしょうか。 だいたい御意見もいただきましたので、これを部会案として親会議のほうへ提出するというところでよろしいでしょうか。
荒川委員	ちょっと細かいところですけども、8ページの(2)だけ「我が国の」と「我が」が入っているんですね。(3)は「国の」となっているのですけれども。すごく細かくて申し訳ないですけど、どうですか。あえて「我が国」と「我が」入れる必要がありますか。
末富委員	確かにそうですね。
尾谷部会長	(2)と(3)と並べて見たときにですね。
木下参事	実は、ここは表現の仕方で困ったところです。北海道だけの課題でもなく、北海道の課題でもあるということで、国もそうだし、北海道はことさらそうだよという表現はないものかと。今、荒川委員がおっしゃったのは、もっと単純な「国」か「我が国」かという話ですが、(3)で「国」と書いてありますので、「我が」を削ってもいいですかね。
青木室長	3番のところは、本当は「国の」と言わなくても、わかる人はわかるんですけれどもね。
荒川委員	細かい話ですが、ちょっと気になりました。概要版にも出てくるので、目立ったんですよ。
木下参事	「我が国」って検索しても、ここだけなんですよね。あまり使わない言葉なので。

大倉委員	下のところの文章にも「我が国」とありますよね。これは文章の中だからいいんですよね。
荒川委員	そこはあまり違和感がないですが、タイトルで「我が国」とするなら、「我が北海道」じゃないのと。ちょっと理屈っぽいですけど。
木下参事	「我が」は削ります。
尾谷部会長	<p>ほかにいかがでしょうか。よろしいでしょうか。</p> <p>それでは、ちょっと宿題が残っていますが、これは私と事務局の方で修正などを行いまして、今月29日に開催予定の審議会の親会へ提出したいと思っておりますので、これをもって部会案とさせていただきます。</p> <p>では、次に議事(2)の「北海道科学技術振興条例の見直しの検討について」ということで、事務局から説明をお願いします。</p>
木下参事	<p>資料2-1から資料2-3をご覧くださいと思います。</p> <p>昨年5月の審議会でもお話ししましたが、今年度は条例の見直しの検討時期でありますことから、本日は条例の見直しにつきましてお諮りいたしましたと思います。</p> <p>まず、資料2-2をご覧くださいと思います。条例の概要をあらかじめ御説明させていただきたいと思います。</p> <p>条例は、平成20年4月に施行されたものでございますが、「1 総則」の「前文」には、科学技術振興を通じて、本道経済の活性化や、安全で安心な生活、環境と調和した社会の実現に寄与するといった目指す姿を掲げているのをはじめまして、「目的」には、科学技術の水準の向上やイノベーションの創出、さらに、「基本理念」には科学技術振興を図る上での基本的な事項のほか、道や大学等の関係者の責務役割、「2 科学技術の振興に関する基本的施策等」では、「基本計画」の内容ですとか、道が関係者と連携して取り組む「基本的施策」、「3 科学技術審議会」に関する事など基本的な事項が定められております。</p> <p>このように、この条例の性格は、個々の具体的な施策や取組を定めているのではなく、施策の基本となる事項を定めるに止め、具体的な施策や取組は基本計画であります、先ほど御審議いただいた「科学技術振興計画」に委ねているところでございます。</p> <p>資料2-1をご覧くださいと思います。</p> <p>「北海道科学技術基本条例」の見直しの検討についてということで、「1 趣旨」でございますが、科学技術振興条例では、条例の附則6で「知事は、この条例の施行の日から起算して5年を経過するごとに、社会経済情勢の変化等を勘案し、この条例の施行の状況等について検討を加え、その結果に基づいて必要な措置を講ずるものとする。」と、されておりまして、条例の見直しの検討を行わなければならない規定がありまして、平成24年度に続いて条例の見直しの検討を行うものでございます。</p>

	<p>道の条例の多くは、こうした見直し規定が定められておりまして、こうした見直しの検討は、科学技術振興条例に限ったことではございません。</p> <p>そこで、「2 見直しの検討」でございますが、道では、毎年度、道の文書管理を担当する部局から、①必要性、②効果、③規定の適正化などといった視点から、条例の見直しの検討を行うよう通知が出されておりました。本件につきましても、こうした視点から見直しの検討を行ったところでございます。</p> <p>まず、【①必要性】の「現在でも条例が必要かどうか。」につきましては、条例制定当初の考え方であり、科学技術の振興を通じ、本道の経済の活性化と、安全で安心な生活基盤の創造、環境と調和した持続的な社会の実現に寄与することは、現在も変わることはなく、条例は必要である、というふうにいたしました。</p> <p>「不要となった規定はないか。」につきましては、本条例は、先ほども申し上げたとおり、目的や基本理念、関係者の責務役割、基本的施策など基本的な事項に関する規定が定められているものであるため、不要となった規定はない、といたしました。</p> <p>次に、【②効果】の「現在においても、条例の規定が効率的に機能し、十分な成果を挙げているか。」につきましては、条例に基づき、情勢の変化等を踏まえ、科学技術の振興に関する計画を策定し、施策の推進を図るとともに、その推進状況について、毎年度、審議会で調査審議し、推進しており、成果を挙げている、といたしました。</p> <p>【③基本方針との適合性】の「道政の長期的な基本方針（北海道総合計画等）に適合したものになっているか。」につきましては、条例に基づき策定しており、科学技術振興計画は、北海道総合計画の特定分野別計画であり、適合したものである、といたしました。</p> <p>【④適法性】の「条例の内容が法令の範囲内であるか。」につきましては、条例の中で、法令違反となる規定はございません。</p> <p>【⑤規定の適正化】の「規定ぶりなどを改正すべき事項がないか。」については、この条例は、本道の科学技術の振興について、基本的な事項に関する規定が定められているものであるため、改正すべき事項はない、としました。</p> <p>以上により、条例の見直しについて検討を行った結果、「3 検討結果（案）」のとおり、見直しの検討の結果、条例の改廃等の必要はない、といたしました。</p> <p>以上でございます。</p>
尾谷部会長	<p>ちょっと確認ですけれども、我々、この部会員にも、この条例の見直しを部会案として出すという任務があるんですね、ルールとしては。それとも、もともとの親会議でそれを判断するのですか。</p>

木下参事	いえ、条例の見直しをする場合、必要に応じて外部機関の方から意見をいただくというふうになっておりますので、審議会で必ずこうしなければならぬというふうに決まっているわけではないです。
尾谷部会長	今回の部会は、こういう方々にお集まりいただいているので、ここで御意見を集約しておくということですね。そうするとこれで、部会のほうでも見直しについて御意見をいただいて、こうこうこういう御意見をいただきましたということを次の親会議では報告になるかたちにはなりませんよね。
木下参事	いえ、親会には報告はしません。
尾谷部会長	親会には報告しない。わかりました。位置づけはそういうことのようにです。私、部会長として、ちょっとこの部分を理解しておりませんでした。 今、説明いただきましたように、道では5年ごとに条例そのものの見直しを検討しなさいとなっているということです。 事務局のほうから①から⑤まで、「必要性」、「効果」、「基本方針との適合性」、「適法性」、「規程の適正化」ということで説明いただきましたが、いかがでしょうか。
西岡委員	もし条例そのものがなかったら、どんなことになるんですか。
木下参事	条例の中身をご覧になるとわかるとおり、役割ですとか、当たり前のことを明文化したものとなっておりますので、基本的には影響というものはないと思いますが、明文化することによって皆さんの役割がきちっとわかる、それからこの計画も策定するというようになっておりますので、そこら辺の根拠を失うということにはなってくると思います。
青木室長	道の施策上の位置づけとして、一定の根拠を与えているということです。
西岡委員	であれば必要ですよ。
末富委員	これを見ますと、第5条の大学の役割ですとか、私も金融機関にいたので第8条の金融機関等の役割、あと第13条の産学官及び金融機関等の協働の促進というのは、本当に今でも通じる話でございまして、当たり前ですけれども、まあ明確にするというのはそれなりに意味があるのかなという気はしますね。
青木室長	時代とともに、たまに変わることがあるんですよ。例えば、道と市町村の役割分担みたいなことが以前、変わりました、条例を見直したという経過は以前にはあります。

尾谷部会長	<p>よろしいでしょうか。では、事務局から提示されたように、条例の見直しについては、特段、見直す項目はなしということに、この部会もさせていただきますしたいと思います。</p> <p>以上で本日お諮りする二つの議論は終了しました。ありがとうございました。その他ということで、まず事務局から何かありますか。</p>
木下参事	<p>その他ということで1点、御説明いたします。</p> <p>先ほど部会長からお話がありましたとおり、今月29日に親会の審議会を開催して、そこで答申をいただきたいと思っております。その答申を踏まえまして、この案を今年度中に成案にしたいと考えてございます。これから議会もあるのですが、議会に報告して成案にしたいというふうに思っております。以上でございます。</p>
尾谷部会長	<p>それではここでもう一度、今日の全体を通して皆さんから何かございますか。</p>
西岡委員	<p>ちょっといいですか。参考資料の2のパブコメの意見募集に対する道の考え方ですけれども、確かにこのとおりなんだろうと思いますが、2ページ目の下から3つ目で、「せっかく大学などで研究を行っても、その成果が実用化されなければ意味が無いので、研究成果が企業などの商品化に生かされるような取組を行っていくべきだと思います」という意見に対して、道の考え方は「事業化・実用化を進めます」。なにかもうちょっと具体的な記載があってもいいかなと。進めますというのであれば、もうちょっと誠意のある回答にしたほうがいいのではないのでしょうか。</p>
佐々木委員	<p>普通は「進めております」ですよね。これだと、まるで何もやっていないような書き方ですよね。</p>
木下参事	<p>わかりました。更に進めるという趣旨で書いたつもりなんですけれども、その前にちょっと事例を書くようにしたいと思います。</p>
尾谷部会長	<p>よろしいでしょうか。他になければ、道のほうから、何かありますか。</p>
青木室長	<p>本日、部会としては最後ということでございます。</p> <p>尾谷部会長をはじめ委員の皆様には5月から9か月間にわたり、熱心に御議論いただいたと思っております。</p> <p>今回の計画といいますのは、条例が平成20年にできまして、これまでの計画といいますと国の大きなプロジェクトがずっと継続をされておまして、柱があった状態でずっと計画をつくってきた。今も継続しているプロジェクトがございますけれども、ちょっと、かつてのように大きなプロジェクトが取れていない状況になっている中で、今後どうするかで我々自身もどういう内容にしようかということを検討を始めた段階では、どこに落ち着かせようかというところの青写真が十分描けていない中で議論を進めてきたと思っております。その中で皆様方</p>

	<p>から御意見をいただきながら重点化プロジェクトというものの方向性を固めることをできたということが今回大きな成果といえましょうか、計画の大きな柱になったものと思っております。</p> <p>我々これから計画をつくったものの推進をしていくためには、道の予算ももちろんですし、人員体制ももちろんですし、なんといっても国から予算を取ってくるということも、これから頑張るやらなくちゃならないと思っております。その国等から予算を取ってくる、あるいは道の予算を編成していく上で、この計画というのが根拠になって、あるいはまた皆様からの御意見もいただきながら議論を進めていくということが重要になっていくと思っておりますので、計画をつくってしっかりと魂を入れて進めてまいりたいと思っておりますので、引き続き御協力のほどよろしくをお願いいたします。本当にありがとうございました。</p>
尾谷部会長	<p>最後ということなので、私のほうからも一言。</p> <p>今日は第5回の部会ですが、それに加えて一度、私のほうから、技術マップを検討いただきたいということでお集まりいただきましたので、都合6回、皆様にはお集まりいただき、検討いただきました。本当にありがとうございました。</p> <p>その技術マップですが、実は第8項のところは未完成の状態になっているんですけども、今日、皆さんに議論いただきましたこの計画案が成案となるまでには完成させたいと思っております。実際に計画が進められる段階においては、各段階で技術的な視点から検証する資料として活用していただきたいと思っております。</p> <p>あの技術マップの扱いは、事務局とすれば非常に困るかもしれませんが、前回の部会長が勝手につくったという位置づけで結構ですので、それを活用して、どの技術がどう進んでいったのかというのをきちっと検証することを5年間、続けていただきたい。</p> <p>そうして、次のまたこういう計画の議論をする部会を進めていく方々に、これをベースにして、北海道の技術がどうなっているのかというのをより精査していただければ、今回、我々が取り組んだ意味合いがあるのかなというふうに思います。これは是非、事務局のほうにお願いしておきたいと思っております。</p> <p>それから、この部会でも議論になった、これからの人口はどのようになるのだろうか、環境はどのようになるんだ、エネルギーはどうだと、本当に様々な制約を受ける時代をこれから迎えます。産業振興一つとっても、従来とは違う視点でやっていかなければならない。そういう新たな世界を構築していくときに、今回、皆さんに議論いただいた、この科学技術というのが、ますますこの北海道にとって重要なものになってくると私は思っているんですね。</p> <p>今回、皆さんは5年間の計画づくりに携わりましたので、今日で終わっ</p>

たとは思わずに、「ところであれ、議論した計画、どうなっているんだ」ということを、いろんなところで気配りしていただきたいし、声を出していただきたい、発信していただきたいというふうに思います。これは計画作りに携わった我々の責務かなというふうに思いますので、向こう5年間、重ねて皆さんにお願いをしたいということでございます。

各界から来ていただきました5名の特別委員の方と、それから親会から来ていただきました5名、この10名で部会を運営させていただきました。当初から力が無いということを知りながらも、これを引き受けまして、本当に皆さんの御協力の下、今日を迎えることができました。本当にありがとうございました。

以上を持ちまして、この部会を終了させていただきます。

本当にありがとうございました。